

第2回わたらせ渓谷鐵道沿線地域交通リ・デザイン推進協議会 議事概要

日時：2024 年（令和 6 年）2 月 6 日（火）14：00～16：00

場所：桐生商工会議所 6 階 ケービックホール 1、2

群馬県桐生市錦町 3-1-25 ※Zoom 併用のハイブリッド開催

1 開 会

2 会長あいさつ

3 委員の紹介

4 議 事

【報告事項】

（1）協議会の目的や協議内容について

（2）わたらせ渓谷鐵道及び沿線地域に関する調査結果（中間報告）の概要について

【協議事項】

（3）令和 6 年度協議会事業計画（案）について

（4）令和 6 年度協議会予算（案）について

5 その他

（1）今後のスケジュールについて

6 閉 会

【配布資料】

資料 0 議事次第

資料 1－1 第2回わたらせ渓谷鐵道沿線地域交通リ・デザイン推進協議会 出席者名簿

資料 1－2 第2回わたらせ渓谷鐵道沿線地域交通リ・デザイン推進協議会 配席表

資料 2 わたらせ渓谷鐵道沿線地域交通リ・デザイン推進協議会規約

資料 3 わたらせ渓谷鐵道及び沿線地域に関する調査結果（中間報告）

資料 4 令和 6 年度協議会事業計画（案）

資料 5 令和 6 年度協議会予算（案）

資料 6 今後のスケジュールについて

1. 開 会
2. 会長あいさつ
3. 委員の紹介
4. 議 事

(1) 協議会の目的や協議内容について

<事務局より資料3に基づき説明>

《意見等》

■リ・デザイン推進協議会の体制について

【吉田会長（福島大学・前橋工科大学）】

- ・ 参画する関係者に関東運輸局群馬運輸支局とあるが、栃木県にも跨る路線であるため、栃木運輸支局も触れておいたほうが良い。

⇒【事務局】ご指摘を踏まえて体制図の書き方を修正する。

(2) わたらせ渓谷鐵道及び沿線地域に関する調査結果（中間報告）の概要について

<事務局より資料3に基づき説明>

《意見等》

■わたらせ渓谷鐵道の現状について

【田中委員（群馬県）】

- ・ 収益を考えると利用者数×単価であり、沿線人口が減っていく中で観光客をどれだけ増やしていけるか。コストについても企業努力をされていると考えているが、今後下げることができるのか。また、黒字化は難しいと思われるが、行政がどこまで負担をしているかという点がポイントだと思う。さらに、職員の方の確保ができるかという点も重要であると思う。

【吉田会長（福島大学・前橋工科大学）】

- ・ 利用者確保に関するポテンシャルはあるのか、コストに関する現状はどうなのか。その辺りを品川委員にお伺いしたい。

【品川委員（わたらせ渓谷鐵道）】

- ・ わたらせ渓谷鐵道は地域の生活交通を担う機能と、地域へ交流人口を呼び込む機能の二面性を持っている点が特徴と考えている。他の観光鉄道とは異なり、地域のために一日に40往復運行している。コロナ禍で観光利用客が減っているが、沿線3市と民間事業者とが連携して、わたらせ渓谷鐵道を核に観光客を呼び込もうとしている。現在、水沼駅周辺の開発が進んでおり、今後、足尾銅山記念館の建設やサンレイク草木のリニューアルも計画されているため、3～5年後には集客能力のある地域になると考えている。
- ・ コスト面では、(H29年軌道検測車の脱線)事故等の対応のため、自治体の協力のもと、5年間で集中的にPC枕木化を行った関係で、高くなっている。車両は残り2両を更新すると古い車両が無くなり、更新の必要が無くなる。
- ・ 最近、わたらせ渓谷鐵道はメディアへの露出が増えており、若い職員が増え、運転士は予定人数に足りている。

■アンケート調査について

【佐羽委員（関東運輸局地域公共交通マイスター）】

- ・ 沿線地域住民アンケートで対象とした範囲はどこまでか。

⇒【事務局】 駅周辺 1km 圏内にお住まいの方を、住民基本台帳データから無作為抽出としている。

【品川委員（わたらせ渓谷鐵道）】

- ・ 今回の観光利用客アンケートでは、回答の負担を考慮して、ツアー客を対象外としてもらったこともあり、沿線の立ち寄り先が少なくなっている可能性がある。また、紅葉のシーズンに実施したため、トロッコ列車に乗車して紅葉を楽しむ人が多かったことも立ち寄り先に影響していると思われる。可能であれば、別途ツアー客を対象としたアンケートをしてもらえると良い。
- ・ 乗降調査では日常的に使っている方から、接客面を評価していただいている。資料では休日利用者から接客に対する回答が少ないとされているが、498 人中 165 人の回答が接客を評価してもらっているということではないか。
- ・ 沿線住民アンケートにおいて、わたらせ渓谷鐵道が無くなっても困ることが無いという回答が 36% とあるが、64% の人は困るということではないか。表現を見直してもらえないか。また、地域へもたらず効果についてしっかり回答してもらっており、これだけ地域の人に効果を実感してもらっている鉄道と捉えることができるのではないか。

⇒【事務局】 接客に関する分析の趣旨としては、休日は車窓からの景色を評価している人に対して接客を評価した割合が少ない点について述べたものである。観光利用客アンケートについては、わたらせ渓谷鐵道の方で把握されている団体ツアーの行程等を提供していただければ分析は可能と考えている。

【田中委員（群馬県）】

- ・ 困ることはないという回答に関しては、見方によって色々な解釈ができると思う。本日出席されている沿線住民の皆様のご意見を是非伺いたい。わたらせ渓谷鐵道がなくなって困ることに関しても、困る度合いが様々であると思う。

【吉田会長（福島大学・前橋工科大学）】

- ・ 困ることはないが 36% だからと言って、64% が困るかというそうではない。どのような状況の人が答えたかにもよる。免許の有無や年齢階層によっても差があるのではないか。
- ・ 回答率が約 3 割は、他の鉄道で実施したアンケートと比較すると、低い。回答していない人、無関心層をいかに取り込むかということも重要である。

■わたらせ渓谷鐵道のあり方について

【佐羽委員（関東運輸局地域公共交通マイスター）】

- ・ 今回の会議は 14 時開始であるが、桐生駅までわたらせ渓谷鐵道で来ようとする時刻表と合っていない。他の自治体等の会議でも、わたらせ渓谷鐵道で来られない時間に会議を設定される場合が多い。わたらせ渓谷鐵道を地域の生活交通のためのインフラとしてどう活かしていくかが重要ではないか。

【吉田会長（福島大学・前橋工科大学）】

- ・ この協議会では、鉄道自体をどうするかということも議論するが、その議論を通じてこの地域をどうするかということも考えていかないといけない。沿線地域の暮らしに鉄道、公共交通をどう活かしていくかという視点で議論することが重要である。

【木村委員（みどり市商工会）】

- ・ わたらせ渓谷鐵道は最近マスコミにも取り上げられており、団体だけでなく個人のお客様も増えていることを考えると、観光政策と交通という視点をセットで考えていくことが重要ではないか。例えばこの会議の場に観光協会に入ってもらう等の事があっても良いのではないか。
- ・ 首都圏から見ると、黒部峡谷までは遠くても、わたらせ渓谷鐵道は簡単に来られるという声を聞く。

⇒【事務局】わたらせ渓谷鐵道が観光路線としても側面が高いということは認識している。協議会のメンバーは多すぎてもいけないと考え、法で定められている最低限のメンバーで構成させていた。新たに委員を追加するか等かは事務局内で検討させていただくが、各市の内部で意見収集をしていただくなど、観光面の意見を取り入れられるようにしたい。

【吉田会長（福島大学・前橋工科大学）】

- ・ 群馬県の会議では、この路線の他に上信電鉄、上毛電気鐵道でも協議会が行われているが、それぞれ特性があって観光に関する意見も出ており、観光に関する視点は重要だと感じている。
- ・ 協議会規約に会長の要請に応じて臨時委員を出席させることができる規定がある。先ほど、品川委員から今後数年以内で沿線に様々な施設ができるという話があったが、そういった取り組みをされている方に臨時委員として協議会に参加いただき、ヒアリングするということもあり得る。

【鏡山委員（ぐんま地域共創パートナーズ）】

- ・ 資料を見ると、数字上では歪な構造になっていることがわかる。現状では鉄道収入で運行経費を賄っていないということだが、この経費を抑えることが可能なのかという一方で、平日の通勤・通学利用では赤字、休日の観光で赤字をカバーしているという視点もある。平日の観光利用を増やしていくということも重要だが、夏休み等、通学以外に利用可能な定期券等、収入を上げるための工夫ができないか。

【品川委員（わたらせ渓谷鐵道）】

- ・ 通学利用客が近年増加したのは、桐生西高校と桐生南高校が合併し、運動公園駅に近い桐生清桜高校として統合したことが一因である。利用者数の考え方として、通学利用は1人が1年間利用すると730人(365日×2回)と計上するが、定期外の730人の場合は往復を考えても365人が実際に沿線地域に来ていることを意味している。このことが沿線地域にどれほどの効果をもたらしているかという視点も重要である。
- ・ 先ほど平日利用という意見があったが、登山目的のシニア層が平日に利用されることが多い。沿線には登りやすい山が多く平日の利用客を取り込むために、イラスト入りのマップを作っている。
- ・ その際には駅から登山口へのフィーダー交通も必要となるため、一緒に取り組んでいきたいと思っている。

【鏡山委員（ぐんま地域共創パートナーズ）】

- ・ 来てもらいたい方々にとっての不満足が何なのかを明らかにすることが利用客を増やすことに繋がると思う。観光客のアンケートでも予約方法、キャッシュレスに関する意見もあったが、観光客の増加につながるのであれば議論していきたい。また、他の交通機関との連携による利便性向上も課題で

あると思う。

【松島委員（わたらせ渓谷鐵道各駅イルミネーション事業実行委員会）】

- ・ 長く沿線に住んでおり、昭和 40 年代は通勤時間帯に 4 両編成が満席になるほどであった。その頃と比べると沿線人口が減少しており、沿線人口だけでわたらせ渓谷鐵道を維持していくことは難しいと思う。極論ではあるが、観光利用に特化した鉄道路線とし、周辺住民はバスで輸送するというのもできるのではないか。かつて足尾線が廃線の対象となったとき、沿線住民が協力して 1000 人乗車を目標に活動していた。今の若い人がわたらせ渓谷鐵道にどれだけ関心を持ってくれているか。わたらせ渓谷鐵道各駅イルミネーション事業をしているが 20 年間ほぼメンバーは変わっていない。

【吉田会長（福島大学・前橋工科大学）】

- ・ どのような経営形態で誰をターゲットにしていくかということは、色々シミュレーションをしていく必要がある。生活交通を維持していくのか、観光に振り切るのか、様々なケースが考えられると思うが、今後事務局の方で検討をしてもらうことになると思う。
- ・ 一方で、住民の方の熱意がないと鉄道として残していけない。沿線人口が減っている中で、この地域の交通や鉄道をどうしていくかは計画の中でしっかり書き込んでいく必要がある。

【佐羽委員（関東運輸局地域公共交通マイスター）】

- ・ 観光的要素を高めるにしても、この地域に来たからこそ味わえるようなものが残っていないといけない。わたらせ渓谷鐵道としての価値をどう残していくかが重要。生活交通の部分で言うと、鉄道が無くなったことで高校生がいなくなった地域もある。他の交通と比較して絶対的優先権を持った鉄道は重要だと思う。今や路線バスさえもなくなりそうな時代なので、慎重に考えることが必要ではないか。

【品川委員（わたらせ渓谷鐵道）】

- ・ 鉄道には乗る楽しさがあると思う。以前クラウドファンディングを行った際に、全国から寄せられた意見の中で、「昔乗っていた」や「列車に乗ると楽しい」と意見があった。地元の人と観光客との交流が魅力にあると思う。鉄道を手段として、地域の活性化に寄与していきたい。

【吉田会長（福島大学・前橋工科大学）】

- ・ 生活と観光は決して対立ではないと思う。上信電鉄、上毛電気鐵道と比べると輸送密度は低く、定期利用者の割合も低いことは事実であるが、鉄道としての価値をどこに置くかということが今後の論点になると思う。数年後に様々な施設ができるという話もあったが、利用者を獲得できるポテンシャルがどれだけあるか、そのときの収支あるいは財務状況がどうなるか検討する必要がある。臨時委員については事務局とも話し合っていきたいと思うが、ぜひ地域や委員の皆様にも地域の声を集めてもらいたい。

【岩波委員（桐生商工会議所）】

- ・ 資料の中で、駅からの交通手段分担率があったが、やはり徒歩でアクセスする人が多い。駅までのアクセスという点は日常利用において重要になってくると思うので、駅までのアクセスと一体となった交通政策という視点で考えてもらいたい。
- ・ またキャッシュレスシステムに関する要望もあったが、GunMaaS を使えばわたらせ渓谷鐵道の場合は普通乗車券も購入することができる。その辺りの周知をしていく必要があるかと思う。

■沿線自治体との連携について

【吉田会長（福島大学・前橋工科大学）】

- ・ 駅からの交通手段も重要である。この地域は民間路線バスが多く走っている地域ではなく、自治体によるコミュニティバスやオンデマンド交通でカバーされている地域である。最後に沿線自治体からも一言ずついただきたい。

【宮地委員（桐生市）】

- ・ 日常生活の中での行動のリ・デザインも求められていると感じている。通勤・通学や出張利用の際に、公共交通が使えるところでも公用車で行ってしまうということがあるので、職員の公共交通利用に関してもまだまだ考える余地があると思う。

【青木委員（みどり市）】

- ・ アンケート結果からも無関心層をどう引き込むかというところが大きな問題だと思う。また、沿線にはポテンシャルがあり、魅力あるところも出てくると考えている。わたらせ渓谷鐵道と路線バスの結節といったところでも維持存続させていきたいと考えている。

【五月女代理（栃木県）】

- ・ 鐵道の意義という中で、観光の側面も大きいと考えている。資料の中でも初めての利用が多い点や宿泊せずに日帰りで帰る点が指摘されていたが、栃木県としても課題であると捉えている。地域の魅力あるところを回っていただくことや、リピーターを増やしていくことが、地域としてのプラスになると考えている。

【板垣代理（日光市）】

- ・ 日光市では、足尾地域と日光駅を結ぶ市営バスを走らせているが、コロナ前であれば30人乗りのバスに乗り切れないということもあった。足尾地域がもっと賑やかな街になるようにわたらせ渓谷鐵道と連携していきたいと思っている。

■その他

【吉田会長（福島大学・前橋工科大学）】

- ・ 25ページの今後の修繕、設備投資計画の表において、令和10年だけ合計値が大きくなっているが、要因は何か。

⇒【事務局】車両更新費の分が誤って合計に含まれてしまっている。車両更新費は別途検討することとしており、資料の合計値を修正する。

（3）令和6年度協議会事業計画（案）について

＜事務局より資料4に基づき説明＞

《意見等》特になし

＜予算（案）に関して賛成多数（過半数）で承認＞

（4）令和6年度協議会予算（案）について

＜事務局より資料5に基づき説明＞

《意見等》特になし

＜予算（案）に関して賛成多数（過半数）で承認＞

5. その他

（１）今後のスケジュールについて

＜事務局より資料６に基づき説明＞

《意見等》特になし

6. 閉会

以上